

夢がかたに

祝 新名神高速道路 亀山JCT~草津田上IC開通

期待を乗せ発進

日本高速道路株式会社

2月23日(土)、待望の新名神高速道路草津田上インターチェンジから亀山ジャンクション間が開通を迎えました。開通日には、開通記念式典をはじめ、多くの市民の皆さんが各地で開通を祝いました。



△山内小学校児童の鈴鹿馬子唄の大合唱

新名神開通

市内は祝ムード一色

待望の新名神高速道路が開通しました。

当市は当然のことながら、新名神高速道路は関西圏と中部圏を結ぶ大動脈として、各方面からも大きな期待が寄せられています。

開通当日には、甲賀土山インターチェンジで記念の式典が行われ、市内関係者の方や市内小学校児童も参加、記念式典や開通イベントが盛大に行われました。

企業誘致や産業振興、観光誘致など新名神がもたらす効果は大きく、開通後は、利用台数も予想をはるかに上回っているようです。

今月号では、開通日の記念式典や市役所横で行われた記念イベントなど、お祝いムード一色に染まった市内の様子を紹介いたします。

また、市内にある甲南パーキングエリアと土山サービスエリアを訪問させていただき、利用されている方にインタビューをさせていただきました。

鈴鹿馬子唄で現代の宿駅をお祝い

甲賀土山インターチェンジで行われた開通記念式典には、関係者約1500人が出席、冬柴国土交通大臣らのあいさつが行われました。

鉄入れ式では、市内小学校児童も入ったのテープカットの他、山内小学校児童による力強い「鈴鹿馬子唄」の披露や市内小学校児童ら400人による「よるこびの歌」で開通を祝いました。



△夢と期待を乗せ風船を大空へ



△開通の瞬間、紅白餅まき

水口庁舎横特設会場で行われた開通記念イベントでは、地元物産展や関連企業のブースが並び、開通を祝う市民で賑わい、その瞬間を待ちました。

いよいよ開通の時、中嶋市長も駆けつけ、会場全員でカウントダウン、「3、2、1、0」の掛け声とともに紅白の餅が舞い、全員で開通を祝いました。

開通後、10日間で25万台が利用

新名神高速道路が開通して3月3日までの10日間の利用台数が、当初予想を大きく上回る約253,000台を数えました。(信楽・甲賀土山間通行量・西日本高速道路(株)調べ)

これは一日平均にすると約25,300台で、当初の見込みの12,400台の2倍を超す車が利用したことになります。

特に3月1日(土)は、30,000台を突破、また2日(日)は、37,000台を突破しました。また、市内2か所のインターチェンジ利用台数は、信楽が約63,000(一日平均約6,300台)、甲賀土山が約61,000台(同約6,100台)が利用されました。

人・もの・情報が交わる現代の宿駅「甲賀市」。当市が秘める可能性は無量大であり、その大きな期待にこたえるまちづくりが各方面から求められています。

市では、今後、新名神高速道路の利用台数や経済波及効

新名神の全線開通を

全線早期整備求める会を開催

甲賀市を始め、滋賀・三重の両県などで構成する新名神高速道路三重・滋賀建設促進県民協議会による新名神の早期整備を求める会が、2月23日(土)の新名神開通式典終了後に開催されました。

同会には、国土交通省の冬柴大臣や滋賀・三重の両県知事、各種団体の代表者などが出席、新名神の全線開通が周辺地域には欠かせない資本整備であることを確認しました。

当日は、中嶋市長も冬柴大臣と意見を交わし、地方における道路整備の必要性を直接訴え、協力を求めました。

新名神憩いのオアシス ~甲南PA・土山SA~

開通した新名神高速道路、市内の区間には、甲南パーキングエリアと土山サービスエリアの2か所の休憩施設があります。旅人の憩いの場、甲賀市の魅力発信の場として活躍します。

甲南パーキングエリア

高台に位置し、甲賀市街が見渡せるウッドデッキからの見晴らしは抜群、忍者の里にちなんだフードメニューやグッズを取り揃えています。



△市内の見所を発信、2階ギャラリー

★イチ押しはこれ★

お店の人のお勧めメニュー
忍術こがし醤油黒ラーメン
700円



忍者と言えば隠密です。黒い醤油で具材を隠しています。また、地元黒影米を使っただんもありません。ぜひ、ご賞味ください。

土山サービスエリア

上下線集約型のサービスエリアで300台以上駐車可能な大型施設です。

多くの店が並び、スナックコーナーとショッピングは24時間楽しめます。



△市内観光案内パネル

★イチ押しはこれ★

お店の人のお勧めメニュー
土山茶うどん
600円



麺にお茶を練りこんだ鮮やかな緑色のうどん。のどごしはもちろん、ほのかにただよう、茶の苦味が美味。